

第3回定例会で一般質問

エネルギー政策などを質疑

遊休道有地でソーラー発電活用を提案！

ゆうこう便り

発行:北口雄幸事務所
士別市東7条9丁目
Tel0165-22-3100
fax0165-23-4356

進まない復興

東日本大震災から1年半が経過。大きな被害を受けた東北地方を中心とする被災地の復興は進まず、とりわけ、福島原発の事故後の対応は、まったくと言っていいほど進んでいません。

不安増す対応

そうした対応の遅れに伴い、国の原発政策も明確さに欠けています。今定例会

では、原発の再稼働が見通せない中で、冬の電力需給見込みが論議されましたが、道の対応も、国や北電の対応を見極めるとするばかりで、道民に広がる不安や不信を解消するには至りませんでした。

工事再開の暴挙

また、会期中に、電源開発が青森県下北半島で建設中の大間原発の工事再開の方針を表明しました。道は、「国に厳格な安全審査を求める」などしましたが、建設自体の凍結や中止を求めるまでには至らず、海峡



第3回定例会一般質問でエネルギー政策などを質問(9月21日)

今冬の電力見通しを検証 原発なしでも乗り切れる！

北電では、今年の冬の電力需給において、「現在停止中の泊原発が再開される見込みがないと、運用に最低限必要な予備率を確保できず、安定した電力供給ができないおそれがある」と発表しています。

私たち道議会民主党会派は、北電のデータ等をもとに、今年の冬の電力需給状況を検証しました。その結果、今夏の節電効果8%の半分程度である4%の節電に協力していただければ、原発を再稼働させなくても、7%~15%の予備電力を確保できることが明らかになりました。

ではなぜ、北電は泊原発を再稼働したがるのでしょうか。それは、安全よりも会社の経営のためと考えられます。皆さんはいかがお考えですか？

補正に95億円

可決された補正予算は、道投資単独事業費53億円など一般会計94億8千500万円、特別会計4千100万円の合計95億2千600万円。これで、道の24年度予算の規模は、一般会計2兆7千547億円、特別会計5千357億円、合計3兆2千904億円となりました。

また、経営改善が進まない道立病院の事業改革プラン、O-157による大規模食中毒事件発生を受けての食の安全・安心などについても議論を行いました。

平成23年度の一般会計決算は、形式収支で44億8千900万円、実質収支で11億4千100万円という、かろうじて黒字決算となる綱渡りの財政運営が続いています。

第3回定例道議会報告(9月11日、10月5日)

一般質問における主な質問と答弁内容

第3回定例道議会は、平成24年度道補正予算、「大間原発の建設再開に抗議し説明責任を果たすよう求める決議」、「北海道における冬の電力需給に関する意見書」などを可決しました。

私は、9月21日(金)に一般質問に登壇。道産木材の利用促進、道立病院改革プランの取り組み、エネルギー政策、地域における学



道議仲間と秋田県上の岱地熱発電所を視察(5月11日)

力向上対策、などについて知事並びに教育長の見解を求めました。以下、質問と答弁内容について、主なやり取りを紹介いたします。

木造公住の建設促進を

問 円高ユーロ安で道産丸太の在庫が過剰の状況だ。川下対策として、公共建築物をはじめ、さまざまな分野で地域材の利用促進を図るべきでは。

答 公共建築物はもとより、住宅や農業用施設への利用、森林バイオマスのエネルギー活用など、地域材の利用促進についてしっかり取り組む。地域材の利用促進につながる木造公営住宅を市町村においても建設促進すべきでは。答 道及び市町村が建設した木造公営住宅の事例集を作成するほか、北海道

地域住宅協議会に専門部会を設置し、建設促進されるよう取り組む。

病院改革は地域協議を

問 次期道立病院改革プランの作成にあたっては、地域としっかり協議して進めるべきでは。

答 地域における医療提供体制について、地元市町村などにより具体的な議論を深め、次期プランを策定していく。

エネルギー政策を柱に

問 北海道において、省エネ、再生可能エネルギーの分野を北海道の政策の柱として明確に位置づけるべきでは。

答 エネルギー分野の政策を引き続き道政の最重要課題として、全庁挙げて積極的に展開する。問 エネルギー施策の展開にあつては、地域の振興と地場産業の発展を見据えた取り組みを進めるべきでは。

答 地場産業の振興を図るためには、エネルギーの地産地消の取り組みを拡大するとともに、関連産業の立地の促進や道内企業が有する技術を生かした市場の創出・拡大などが必要。こうした取り組みを通じて、地域経済の活性化につなげていく。

遊休道有地の利活用を

問 遊休道有地をメガソーラーなどに活用する場合、優先的にその利活用を図るべきでは。

答 未利用道有地のうち、メガソーラーとして1メガワット以上の発電が可能な2万㎡以上の土地は全道で15ヶ所あり、その適性を調査し、道のホームページに掲載するなど、未利用地の有効活用に向けた取り組みを進める。

地域での塾などの支援を

問 学習塾のない小さなマチでは子どもたちの学習支援の人材確保に苦労している。地域で学習塾や寺子屋などを運営する場合は、積極的に支援すべきでは。答 市町村と連携し、学生ボランティア学習サポート事業における大学生の派遣を検討するなど、地域における学習支援の取り組みを積極的に支援していく。

採択された決議・意見書

大間原発の建設再開に抗議し説明責任を果たすよう求める決議 北海道における今冬の電力需給に関する意見書 中小企業に対する金融対策の充実を求める意見書 消費者のための新たな訴訟制度の創設を求める意見書 高齢者施策を担うシルバー人材センターに関する意見書 我が国の領土・主権の護持等に関する意見書 配偶者暴力(DV)被害者支援の一層の推進を求める意見書 配合飼料価格の高騰対策に関する意見書 私学助成制度に係る財源措置の充実強化に関する意見書

写真で振り返る北口道議の活動記録(7月~9月)



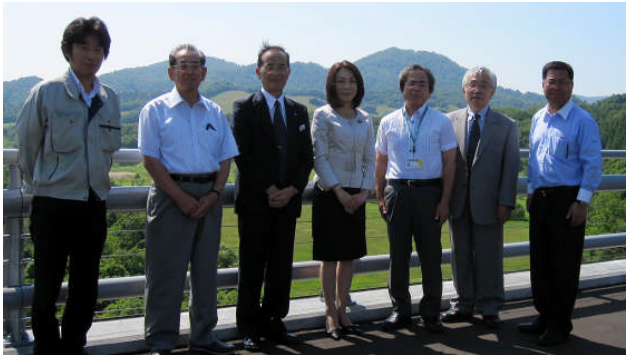
士別神社例大祭(7月15日)



工事休止している大間原発を視察(7月10日)



天塩川まつり千人踊り(8月17日)



徳永エリ参議院議員とサンルダムを視察(7月23日)



TPP 交渉参加反対で民主党へ要請(8月27日)



駒ヶ岳を登山(8月18日)



創成自治会お年寄りを祝う会(9月8日)



幌加内町「新そば祭り」に参加(9月1日)



福島県川内村の子どもを迎える「士別にコラッセ夏学校」開校式(7月24日)
きたごりんファームでの
稲刈り作業(9月16日)



北口ゆうこう奮闘日記

http://y-kiaguchinet/

北口道議の奮闘ぶりをブログから抜粋して紹介します。(7月～9月分)



道北期成会の皆さんからの要請

7月4日【道北期成会からの要請】 今日、道北地域の各種期成会の皆さんが民主党北海道を訪れ、ミッシングリンク解消やサンルダムの凍結解除などの要請を行い、私も同席してきた。今日の要望には、牧野勇司土別市長をはじめ、加藤名寄市長、工藤稚内市長、安斉下川町長、山口美深町長、倉兼美深町議会議長、浅田

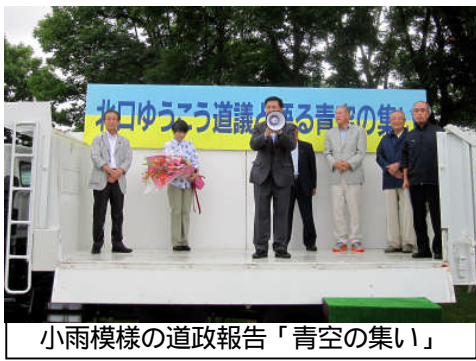


大会に参加した幌加内消防団の皆さん

天塩町長、宮本幌延町長の皆さんがお越しいただき、北海道縦貫自動車道「土別剣淵」名寄間」の整備促進に関する要望(ミッシングリンク解消)一般国道40号線名寄・稚内間規格の高い道路整備に関する要望、天塩川治水促進に関する要望(サンルダム建設凍結解除)、陸上自衛隊名寄駐屯地の体制維持・拡充に関する要望をお受けした。(後略)

7月19日【消防操法訓練大会】 今日、江別市にある北海道消防学校で行われた北海道消防操法訓練大会に参加した皆さんを激励させていただいた。この大会は、消防技術の向上と土

告「青空の集い」を開催。小雨の中、多くの皆さんにご出席いただいた。今年で6回目を迎える青空の集いは、前日からの雨というあいにくのお天気で、野外での焼肉は中止と判断。肉は引き替えとし、テントで懇談しながら集いを進めさせていただいた。冒頭、小貫勝太郎連合後援会長が挨拶、続いて牧野勇司土別市長、佐々木隆博農林水産副大臣



小雨模様の道政報告「青空の集い」

気の高揚を目的に、道内から14チームが参加し、上川管内からは深川地区消防事務組合幌加内消防団が出場し、5位と健闘しました。

8月5日【道政報告「青空の集い」】 今日、道政報



秋味まつり会場で柏谷さん、川口町長と

からそれぞれ激励の言葉をいただいた。道北歌謡研究会から花束を受け道政報告では、「2期目当選以来、北海道の基幹産業である農業の発展に努力してきた。農業が元気にならなければ、北海道は元気にならない」と、農業の果たすべき役割や課題についてお話しさせていただきました。(後略)

9月30日【秋味まつり】 今日、柏谷慧二さんに案内をいただき、「なががわ秋味まつり」に参加。川口精雄中川町長や佐藤輝雄町議会議長と中川町の課題等について懇談させていただいた(中略) また、明日10月1日には、佐々木隆博農

林水産副大臣とともに、酪農振興などについて、要請を受けることとなった。さらに、町内唯一の高校である中川商業高校も今年度末での閉校が決まっており、農業を中心としたマチづくりを目指す中川町の思いを実現できればと思っている。

【つづいて】
「狼が出たぞー」と少年が叫ぶが、村人は知らんぷり。そのうち、本当に狼が出て、羊が食べられるという童話に、「オオカミ少年」がある。今冬における電力の需給の見通しで電力会社や経済界は、「原発を再稼働しないと、今年の冬を乗り切ることができない」と、原発再稼働を訴える。しかし、本当にそうなのだろうか。私たちは、北電や国が示したデータをもとに、今年の冬の電力需給状況を検証した。道民に、今夏の半分の節電をお願いすれば、電力は十分足りることが判明した。ここに来て北電は、「火力発電所の異常停止を想定しなければ」という始末だ。信用できる正確な情報開示を望むのは私一人だろうか。(ゆうこう)